

## 「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿 4月13日（金）放送分

### テーマ「奄美歳時記」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様，おはようございます。県立奄美図書館です。今週のこの時間は，今年度第1回目の，シリーズ「奄美歳時記」をお送りします。

今年度は，毎月第2金曜日に，奄美ならではの文化や行事，四季折々の風物などを紹介するシリーズ「奄美歳時記」をお送りしていきます。どうぞよろしくお願いします。

さて，学校や職場では新入生や新しい仲間を迎えて，新年度がスタートしました。山に目をやると，木々の芽が鮮やかな緑色に輝いています。森の中では，ピア，ピア・・・ギャー，ギャー・・・キョ，キョ，キョ・・・という声が聞こえ，たくさんの鳥たちが繁殖の季節を迎えています。

県立奄美図書館でも，ツバメが巣を作っています。親鳥が巣の中にいる様子が見られるので，卵を抱いているところでしょうか。ひなの黄色いくちばしを見る日を楽しみに，そっと見守っているところです。

奄美群島では，世界中で奄美にのみ生息するルリカケスやアカヒゲ，オーストンオオアカゲラなどの大変貴重な野鳥が多く見られます。

これらの鳥は，<sup>なごやさげんた</sup>名越左源太の「南島雑話」にも記録が残っています。例えば，アカヒゲについては，「年中いる鳥。五，六月に巣を作り，ヒナ鳥を寄せて飛び鳴きをする。そのヒナを取り，高いのは一羽を米一<sup>しょう</sup>升で売る。この時，ハブにかまれる者が多い。」と説明されています。また，エリグロアジサシについては，「目の上に黒い点があり，眉のように見えるところから婦人の眉毛の美しいのをイキュンの眉といって賞賛する。大きさは鳩ぐらい。（中略）漁師はこの鳥が来れば魚が多くとれるという。（後略）」と説明しています。

また，<sup>さめじままさみち</sup>鮫島正道さんの著書「東洋のガラパゴス～奄美の自然と生き物たち～」には，ルリカケスについて次のように記されています。

「ルリカケスは数奇な過去を持っている鳥である。1850年にボナパルテによって学会に初めて紹介されたが、そのときには単に日本の鳥というだけで正確な産地も分からない状態だった。その後、産地がはっきりと確かめられたのは、50年もたった1904年のことで大量のルリカケスの羽毛がヨーロッパに輸出されるようになったのである。

欧米の貴婦人の中で、鳥の羽毛を帽子の飾りに使うことが流行しており、ルリカケスの美しい羽毛は人気があり、珍重された。一時期ではあるが乱獲され、絶滅寸前になったといわれる。その後、第1次大戦の勃発により羽毛の輸出は中止され、さらに、1921年に天然記念物として保護されるようになった。戦争がルリカケスを救ったとは皮肉なことである。」

ボナパルテによって学会で発表された時と同じころに、名越左源太はルリカケスを「方言はヒヨシヤ。山中に群衆している。」と「南島雑話」にまとめ、島津家に報告していたのです。奄美群島の自然や生活を詳しい説明と綿密な図解で記録した「南島雑話」は、名越左源太の奄美への熱い思いさえ感じ取ることができます。

県立奄美図書館、郷土コーナーの図書から野鳥を中心に紹介しましたが、奄美群島に残された多くの動植物が、固有の生態系を保ったまま独自に進化を遂げてきました。そのため、天然記念物を始め、数多くの珍しい動植物が生息しています。

世界自然遺産への登録を視野に入れた、奄美地域の国立公園指定に向けて取組が進められています。奄美に住む私たちが身近な自然をもっとよく知り、学ぶことも大切なのではないのでしょうか。その時に、奄美図書館の図書も参考にいただければ幸いです。これまで何気なく見ていた奄美の自然が、また違って見えてくるかもしれませんよ。

以上、県立奄美図書館でした。